

事業報告書

令和3年度

令和3年度 法人本部事業報告

月	理事会	評議員会	事務局会議	備考
4月			4月16日	
5月	5/25 監事監査 5月31日		5月7日	5/31 議案 令和2年度報告事項、福祉充実残額、定時評議員会開催、定時評議員会に提案する理事・監事の候補者選定、評議員選任・解任委員会開催、次期評議員候補者選定、理事長職務執行状況報告
6月	6/28 決議の省略による理事会	6月21日	6月14日	6/11 評議員選任・解任委員会開催 6/12 議案 理事長1名選定、任期満了に伴う苦情解決第三者委員の選任
7月			7月19日	7/3 議案 児童養護施設の児童の問題行動の対応を含めた報告、児童養護施設組織改善委員会(以下組織改善委員会)の発足、組織改善委員会規程、組織改善委員会委員人選、組織改善委員会開催
8月				8/11 第7回組織改善委員会開催
9月			9月6日	
10月	10月25日		10月11日	10/25 議案 相撲部屋受け入れ、その他報告事項
11月			11月15日	
12月			12月17日	12/6 堺市施設指導監査(児童)
1月				
2月			2月4日 2月28日	
3月	3月28日		3月11日	3/22 議案 令和3年度補正予算、令和4年度事業計画、令和4年度予算、管理職定年制度設定、継続雇用制度実施規程制定、就業規則改定、給与規程改定、職能資格制度規程改定、非常勤職員等就業規則改定、ハラスメント防止規程改定、女性活躍推進法の取組、理事候補者1名選定、評議員候補者1名選定、評議員選任・解任委員選任、評議員選任・解任委員会開催、役員等賠償責任保険、理事長報告事項、今後の予定

2021年度 児童養護施設 東光学園 事業報告

人の道は自分の目には正しく見える、しかし主は人の心をはかられる。
(箴言21章2節)

【基本方針】

子ども達一人ひとりをかけがえのない個人として尊重し、心も身体も健全で、社会に貢献できる自立した人間を育てる

- ①気持ちよく挨拶を交わし、相手を思いやる心を育てる。
- ②常に感謝の気持ちを表現する。
- ③何事にも積極的に取り組む、前向きな姿勢を育てる。

【総括】

◎ 2021年度は、『組織改善委員会』の外部委員の方々からの提言を受け、以下の4つの重点項目に沿って事業を展開し、人権侵害事案の根絶と自主的な組織の改善を目指して取り組んで参りました。

- ①権利擁護の意識の浸透を図ための研修・グループワークの実施。
- ②職員間の連携を図るための朝礼・会議の体制整備。
- ③建物内外の補修・修繕・清掃等の環境整備。
- ④職員の待遇改善。

そうした中で、入所受け入れに対する準備も進めて参りましたが、年度中の入所受け入れには至りませんでした。引き続き社会的養護の使命を果たすべく、委託一時保護・ショートステイも含めた受け入れの体制を整えて参ります。

また、新型コロナウイルスの第六波の影響をうけ、1月中旬から春先にかけて、児童・職員への感染が発生致しました。幸い大きな健康被害は無く、クラスターの発生も抑えることが出来ました。昨年度のノウハウを有効に活用し、迅速且つ的確に行動出来たことに加えて、子ども達一人ひとりの衛生面に対する意識が格段に向上していることも大きな要因でありました。

そして、昨年度実施出来なかった、第三者評価を受審致しました。PDCAサイクルの構築や事業計画等の周知・啓発に対する取り組みへの課題が指摘されました。職員全体で課題を共有し、取り組みの確認・振り返りを行いながら丁寧に対応して参ります。

【具体的取り組み】

①権利擁護の意識の浸透を図るための研修・グループワークの実施

～研修・グループワーク～

- ・アタッチメントや発達障がい、児童の特性の理解等に関する園内外の研修への参加と、園内のグループワークにおいて、意見交換、権利侵害事案の振り返りを行い、権利擁護意識の浸透の強化に努めた。

◎園内学習会（グループワーク）

6/29	入所受け入れについて
7/19	子どもが困った時に助けを求めるスキル
9/7	入所受け入れについて②
10/26	アンケートについて（報告）
11/16	朝礼での共有について（ロールプレイ）
12/14	ロールプレイ②
1/11	2022年度 事業計画の作成
2/16	2022年度 事業計画の作成②（まとめ版を基に）
3/22	2021年度の振り返り（記録について）

◎園内研修

10/4	機能強化研修（オンライン） ① 「アタッチメント」 講師：甲南大学 副学長 北川 恵氏
11/5	② 「ストレスマネジメント」 講師：兵庫県立大学大学院 富永 良喜氏
3/1	権利擁護研修会 「親権」について 講師：法人理事・弁護士 三木 憲明氏

◎園外研修（オンライン・動画視聴含）

4/22 3名参加	新入社員防火研修（オンライン）
5/11 2名参加	大阪施設保母の会研修（オンライン） 「乳幼児期のアタッチメントと後の行動問題の理解と対応」 講師：名古屋大学 学生相談総合センター 特任准教授 工藤 晋平氏
6/1 2名参加	新型コロナウイルス感染症対策強化 専門家派遣事業
6/3 12名参加	権利ノート研修会（オンライン）
6/17 1名参加	感染症・食中毒予防対策講習会（動画視聴） 「食中毒予防対策」

6/23 3名参加	とにかく明るい性教育（オンライン） 「パンツの教室」 講師：パンツの教室インストラクター 平賀 亜沙美氏
6/30 1名参加	COS-P フォローアップ研修（オンライン）
7/5 5名参加	児童間性暴力“0”へのロードマップ（オンライン）
7/13 3名参加	大阪施設保母の会 7月例会（オンライン） 「子どもの性の発達の理解と支援」 講師：大阪大学大学院 野坂 祐子氏
7/20 1名参加	栄養士・調理師研修会（オンライン） 「栄養管理と食育の大切さ」
11/11 1名参加	大阪施設保母の会 11月例会（オンライン） 「発達障害と愛着障害の理解と支援」
11/15 3名参加	従事者部会 マナー研修（オンライン） 「コロナ禍で増えた電話・メール・LINEの今さら聞けない基本ルール」 「変化適応力～新しい生活様式の中で変わりつつあるマナー～」 講師：Brush Up Production ANys 代表 島津 ゆう子氏
12/7 3名参加	近畿児童養護施設協議会 第36回職員研修会 「コロナ禍における重層のストレス状況下に晒された児童への理解と支援」 講師：大阪母子医療センター子どものこころの診療科 主任部長 小杉 恵氏
12/8～27 1名参加	社会的養護を担う児童福祉施設長研修会（動画視聴）
3/7 1名参加	合同人権研修（オンライン） 「大阪府における子どもの権利擁護の取り組みについて」
3/14 1名参加	cocoro-net@OSAKA '21（オンライン）

◎アウトリーチ型研修（武田塾・南河学園・羽曳野荘との合同実施形式）

2名参加	「サークルオブセキリティ（COS-P）」（全6回・9/28,10/26,11/30,12/10,1/25,2/22） 講師：CRC（チャイルド・リソース・センター）
------	---

○権利擁護意識は浸透してきており。傾聴や個別の関わりに重点を置いた支援が展開出来ている。年度中の新規入所受け入れには至らなかったため、引き続き社会的養護の使命を果たすべく、委託一時保護・ショートステイも含めた受け入れの体制を整えていく。

②職員間の連携を図るための朝礼・会議の体制整備

- ・各会議や朝礼での報告事項について、ロールプレイを行い確認するなど、連携体制の強化を図ると共に、11月より記録ソフトを「抱～いだき～」に変更し、より一層の連携の強化を図った。

○欠員の出たホームへの速やかなサポート体制、事故や感染症発生等の際の連携・協力といった緊急事態時における連携がスムーズに実施された。一方、日常の引き継ぎ・連絡に漏れや不備が散見されるため、情報共有の精度を高め、PDCAを意識した取り組みを進めていく。

③建物内外の補修・修繕・清掃等の環境整備

- ・児童の生活部分（男子学童・低学年ホーム内装）の修繕を行い環境整備を図った。
- ・衛生環境の整備として、医療用マスク・消毒液等の購入を行った。
- ・グラウンドのネットの補修を行った。
- ・園内の除草作業を堺市シルバー人材センターに依頼し行った。
- ・園内（土俵回り・クリスマス裏）の大木の樹木伐採を万代園に依頼し行った。

○園内外の環境整備・清掃を実施したことで、児童・職員共に清潔な環境を維持する意識が高まった。また、コロナウィルスの感染発生時においても、一昨年度の経験を踏まえた慎重な行動・対応に努め、感染拡大を最小限に留めることが出来た。

④職員の待遇改善

- ・給与規程を改訂し、俸給表C-2に該当する職員について、従前の昇給に加えて1号俸引き上げる改善を図った。
- ・コロナ対応への慰労金（期末手当）を支給し待遇改善を図った。

○待遇改善・緊急時の連携による連帯意識の効果もあり、人材不足の中にあって、退職者が出ることなく新しい年度へ移行することが出来た。今後は女性職員の増員に向けて活動を行っていく。

【日常生活における支援】

～意見表明・権利擁護～

- ・自治会や生活懇談会、ヒアリング等の意見表明の機会を設け、主体的な生活を送るための取り組みを行った。

◎4/1 子どもの権利ノート説明・学習会

- ・『子どもの権利ノート』並びにリーフレット『子どもたちへの大切なお知らせ』の説明

◎小学生低学年・小学生高学年・中高生自治会

- ・意見や要望を協議

◎生活懇談会

- ・生活目標（施設・学校）の設定と振り返り

◎安全委員会によるヒアリング

- ・生活における困りごとや悩みごとを個別にヒアリング

～学習・進路指導～

- ・今年度は学習習慣を取り戻すところから再度取り組みを行った。

◎公文式学習（園内くもん教室）＊対象：小学生・中学生

◦4/5 公文式学習第10回進級式

- ・進級賞：10名（小；6名、中；4名）
- ・枚数賞：10名（小；10名）

◎進路

◦中学3年生

- ・公立高校への進学（男子；4名、女子；2名、合計；6名）

◦高校3年生

- ・就職（男子；1名、女子；2名、合計；3名）

- ・進学《大学・専門》（男子；1名、女子；1名、合計；2名）＊措置延長2名

～保健衛生、健康管理～

- ・インフルエンザ予防接種を、近隣のクリニックによるボランティア並びに、ふれ愛の家付属診療所にて実施。コロナ禍による手洗い・うがいの励行の効果もあり、今年度もインフルエンザ罹患は発生せず。

◎予防接種（インフルエンザ）

- 神元クリニック（児童・職員） 11/9・11/30

◎予防接種（コロナワクチン）

- 神元クリニック（12歳以上児童） 9/21・9/28・10/9・10/12・10/19・10/30

◎通院状況

令和3年度 児童通院状況報告（令和3年4月～令和4年3月）

令和4年3月31日

病院名	月	令和3年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和4年 1月	2月	3月	合計
1	耳鼻科	6	6	4	2	7	2	2	11	5	1	2	5	53
2	あづみ歯科C	6	5	5	1	3	4	3	8	5	1	1	4	46
3	杉山クリニック (皮膚科)	4	6	2	2		8	1	3	4	3	4	5	42
4	かなざきこどもクリ ニック	3	2	2	3	2	2			1			1	16
5	原田眼科	2	1	8	3	2	2			3				21
6	咲山眼科		1			1		1				1		4
7	佐藤小児科	1	2	3	1	1		1		6		1	1	17
8	山本整形外科	1	3	5	9	8	5	21	7	7	4			70
9	永田整形外科					1	1							2
10	神元クリニック	1	1	1	1	1	5	4	4	2	4	5	2	31
11	鳳高砂クリニック										2			2
12	堺咲花病院										2	5		7
13	みさきファミリークリ ニック										1			1
14	日野クリニック			1										1
15	堀泌尿器科クリニッ ク				1									1
16	赤井マタニティクリ ニック							3	2	1	1			7
17	池野歯科医院							3	3			1		6
18	馬場記念病院		1		1									2
19	邦和病院	1							2	2			1	6
20	つばみ診療所			2	1		2	1		2	1		2	11
21	ベルランド病院		1	1	1		1	1	2		1		1	9
22	大阪母子医療セン ター	2	2	5	6	8	7	4	6	4	4	3	8	59
23	堺市総合医療セン ター	1		1	2		1	1	2	1	1	1	1	12
24	大阪市総合医療セ ンター							1		2	1		1	3
25	耳原鳳クリニック	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
26	さわだメンタルクリ ニック		1	1	1		1	1		1		1	1	8
27	田中ほほえみクリ ニック	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
28	泉北救急センター		1											1
29	近畿大学病院						2	1	1					4
30	阪南病院			1			1			1			1	4
		31	36	45	38	37	47	52	54	50	30	28	37	485

～職業訓練・自活訓練・リービングケア～

- ・退所後に自立した生活を送ることが出来るよう、園内のプログラム、外部の機関・人材を有効に活用し、リービングケアを実施。

◎自活訓練（一人暮らし体験）＊対象：高校3年生

◎ソーシャル・スキル・トレーニング（アフターケア事業部主催／全13回）＊対象：高3生

7/11	開校式 ＜①ビジネスマナー、②テーブルマナー(中華)、③身だしなみセミナー＞
10/17	＜④スマホの安全な使い方、⑤話し方セミナー＞
11/13	＜⑥薬育、⑦テーブルマナー(和食)、⑧職業適性セミナー＞
12/11	＜⑨金融教育、⑩身近な法律の話＞
1/15	＜⑪雇用主様のお話、⑫先輩の体験談＞
2/12	＜⑬振り返りと各自発表＞ 閉校式

◎自立支援弁護士による支援

- ・卒園生（5名）に対する相談援助

◎ボランティアによる支援

- ・卒園生の住居の確保
- ・退園生への就職紹介

～心理療法～

- ・児童精神科への通院の必要性の高い児童も多く入所しており、プレイセラピーやヒアリング等、心理的ケアを行い、生活支援のスタッフとの連携も行った。

・実施児童数：13名（男子；6名 女子；7名）

・心理療法等の回数

内 容	心 理 療 法	心 理 検 査	生 活 場 面 面 接	施 設 助 言 員 及 等 び へ 指 導	処 遇 へ の 検 討 出 席 会 議	そ の 他 研 修 等	計
回 数	302	0	82	51	58	43	536

・対象児童の年齢・主訴別数

	身体的虐待	保護の怠慢・拒否	性的虐待	心理的虐待	ひきこもり	その他	計
0～3歳未満	0	0	0	0	0	0	0
3～学齢前	0	3	0	0	0	0	3
小学生	5	2	0	1	0	0	8
中学生	1	0	0	0	0	0	1
高校生	0	1	0	0	0	0	1
計	6	6	0	1	0	0	13

【児童入退所動向（年度中）】 ※現員は月の初日現在（一時保護は延べ人数）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
現員	74	70	68	65	64	63	63	63	63	63	63	62
入所	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一時保護	0	0	0	0	1	1	4	4	3	2	2	2
退所	4	2	4	1	1	0	0	0	0	0	0	0

【入所理由別（年度中）】

	男	女	計
父母の死亡	0	0	0
父母の行方不明	0	0	0
父母の離婚	0	0	0
父母の不和	0	0	0
父母の拘禁	1	0	1
父母の入院	0	0	0
父母の就労	0	0	0
父母の性格異常・精神障がい	0	0	0
父母の放任・怠惰	0	0	3
父母の虐待・酷使	0	0	0
棄児	0	0	0
養育拒否	0	0	0
破産等の経済的理由	0	0	0
児童の問題による監護困難	0	0	0
その他	0	0	0
合計	1	0	1

【退所理由別（年度中）】

区分	男	女	計	
解除	家庭環境改善	5	1	6
	養子縁組	0	0	0
	自活・自立	5	1	6
	無断外出	0	0	0
	死亡	0	0	0
	その他	0	0	0
変更	他の児童福祉施設等	1	0	1
	その他	0	0	0

【進路・就職先】

区分	男	女	計	
高卒児	製造業	0	0	0
	サービス業	(1)	1	1(1)
	飲食業	0	0	0
	医療関係	0	0	0
	進学	0	0	0
	その他	1	1	2
合計	2	2	4	

令和3年度 特別養護老人ホームふれ愛の家 事業報告

1, はじめに

新型コロナウイルス感染対策を継続しておりましたが、2月に施設内で感染拡大があり、感染対策の難しさを痛感した一年でした。

特別養護老人ホームの入退所者数、入院者数はさらに減少がありました。一方で、地域の居宅介護支援事業所との連携を図り、在宅生活が困難な方の受入や緊急の受入れ、入所待機者を短期入所で受入れを行うことにより入院者の空きベッドを活用することができました。

ここに令和3年度の事業報告をさせていただきます。

2, 特別養護老人ホームふれ愛の家 (介護老人福祉施設)

【入退所、入退院況】

令和4年3月末日

定員 84名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規入所	1	0	3	2	1	0	1	3	2	2	1	1	17
退所	1	3	2	0	1	0	3	2	4	3	1	0	20
入院	3	3	3	4	5	5	4	3	4	2	4	2	42
退院	0	3	0	3	2	0	2	0	1	2	2	4	19
入所者数 (月末日)	82	80	80	81	79	80	79	81	77	76	77	79	951

*退院の件数については、入院後に退所した件数は含みません。(数字は件数を表す)

【施設入所者の要介護状態】

令和4年3月末現在

定員 84名	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	人数	合計
男性	0	1	2	13	1	17	83
女性	0	0	10	31	24	66	
小計	0	1	12	44	25	83	平均介護度
構成比	0	1%	14%	53%	30%		4.10
前年度	0	3%	18%	45%	30%		

(数字は件数を表す)

【施設利用者の実利用人数】

令和4年3月末現在

令和3 年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実利用者数	2394	2438	2420	2468	2443	2370	2415	2369	2363	2338	2116	2377	28511

*年間平均入所者数 78.1名 (稼働率94%)

(数字は人数を表す)

【平均年齢等】

令和4年3月末現在

男性	82 歳	最低年齢	62歳(女性)
女性	88 歳	最高年齢	98歳(女性)
全体	86 歳		

3. 主な行事活動・取組内容

4月	8月	12月
1日 辞令交付式 4日 家族会親睦会	土塔町盆踊り 東光祭	5日 土塔町清掃活動 12日 関大生防災研修 19日 クリスマス祝賀会
5月	9月	1月
コロナワクチン接種1 健康診断	12日 敬老祝賀会 家族会総会 土塔町布団太鼓見学	1日 新年会
6月	10月	2月
6日 土塔町清掃活動 レントゲン検診 春の遠足	深井地車見学 避難訓練(日中想定) 秋の遠足	コロナワクチン接種3 11日より 感染拡大対応 3月4日まで
7月	11月	3月
コロナワクチン接種2 聴力検査	8期 EPA2名受入 14日 校区防災避難訓練 19日 就職説明会	

*新型コロナ感染予防にて線引きは中止しております。

【ボランティア】

コロナ感染予防のため、催し物やクラブ活動のボランティア受入は自粛しました。

リネン業務の洗濯物たたみのボランティアのみ受け入れを行っています。

【研修】

コロナ感染予防のため、集合型での研修会を自粛し、研修資料を活用した書面研修を毎月実施しました。職員の資質向上のため研修計画に基づき、府社協主催のキャリアパス研修やコミュニティソーシャルワーカー養成研修など(主にオンライン研修)に参加しました。

介護福祉士国家資格の取得に向けた勉強会を実施し資格取得に向けたサポートを実施していました。

外国人の支援として、日本語や日本文化の学習だけでなく、介護用語や介護知識・技術の学習会を継続しています。

地域包括支援センターと関西大学の学生と協働し、地域の住民向けの防災研修を開催することができました。

【事故防止、苦情、感染症等】

事故報告・・・ 事故防止委員会を中心に予防策を講じて事故防止に取り組んでおります。

移乗時や介助時にできやすい内出血班の対策と職員の腰痛予防対策を兼ねてフレックスボードを使用、また超低床ベッド・低床ベッドを導入することにより夜間・離床時の転落・転倒の事故防止対策を実施しました。

骨折により入院に至る事故が3件、その他の事故が3件の計6件あり、堺市介護事業者課へ事故報告を行っております。事故の状況を分析し再発防止に向けた取り組みを実施しております。

苦情・・・ 苦情の受付は合計8件うち特養が4件ありました。速やかに状況を確認し、対象者に事情説明を実施しております。

感染症・・・ 新型コロナワクチン接種を診療所と調整し、速やかに利用者・職員に予防接種を実施しました。

堺市の補助金を活用し簡易陰圧装置を甲山部屋に設置しましたが、第6波の影響もあり令和4年2月11日より利用者・職員間でコロナ感染拡大がありました。利用者2名が中等症のため入院、2名に対し対応薬（ラゲブリオ）を処方し48名の利用者が施設内療養となりました。多くの職員が自宅療養となったため、デイ職員が一週間応援することにより介護サービスの継続を行いました。コロナ禍で勤務した職員に対しては特別手当（日額2,500円）を支給しております。

【入院】

特養では31件の入院実績がありました。入院原因の主な症例として、誤嚥性肺炎・転倒による骨折が見られました。また、レベル低下による救急搬送から検査入院となるケース、コロナ感染による入院も2件（中等症）の実績がありました。

【看取り】

看取り介護の実践を得て、利用者様・家族様の意向に寄り添って、施設生活を安心して暮らして頂けるよう取り組みました。ご家族・本人の意向を確認しながら施設での看取り介護を5件実施することができました。

4. 終わりに

これまでの人財確保に課題に対して、今年度は8期EPA候補生2名を新たに採用し、合計8名のベトナム人スタッフが勤務しています。また契約職員から3名を常勤採用としていきます。

人材育成に向けたキャリアパス制度の整備を進めており、職能資格制度規程に基づいて、職員面接を行う体制を整備しております。また職員間では、業務を通じてOJTを実践できるように取り組みを実施しております。尚一層、職員教育を行い、提供するサービスの質の向上を図ります。

設備面では経年劣化がみられた浴室、診療所流し台、消防設備を更新しています。

今後は、職員の働きやすい職場環境を整備しつつ、リーダー・主任の養成研修を継続的に企画実施することにより、組織的な体制強化を図って参ります。

令和3年度 ふれ愛の家 短期入所事業 事業報告

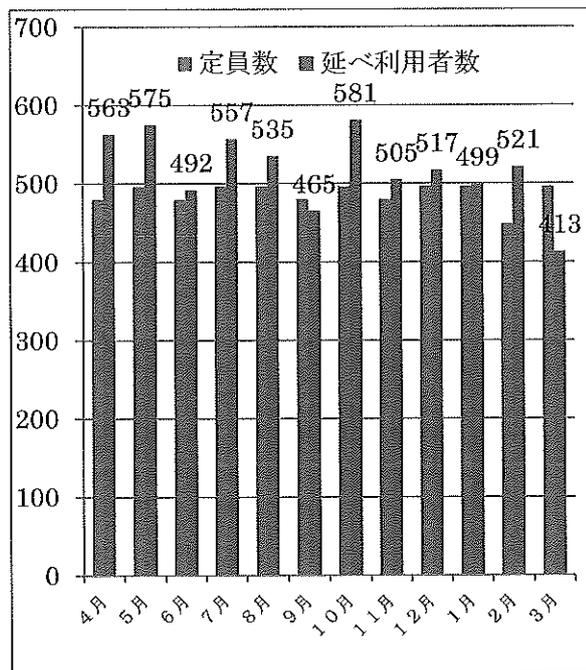
(ショートステイ)

1、はじめに

ここに、令和3年度の短期入所事業及び予防短期入所事業（ショートステイ）定員16床と特養空床利用での事業報告をさせていただきます。

2、令和3年度短期入所事業 利用状況

令和3年度	定員数	延べ利用者数	1日平均利用者数
4月	480	563	18.7
5月	496	575	18.5
6月	480	492	16.4
7月	496	557	17.9
8月	496	535	17.2
9月	480	502	16.7
10月	496	581	18.7
11月	480	505	16.8
12月	496	517	16.6
1月	496	499	16.1
2月	448	521	18.6
3月	496	413	13.3
合計	5840	6261	17.1



3、堺市高齢者虐待等一時対応・空床確保事業

堺市緊急一時入所事業には、4件の依頼があり即日対応しております。

そのうち虐待等空床確保事業では担当期間内に1件の依頼がありました。

4、終わりに

令和3年度は、2月中旬より施設内クラスターが発生した際には短期入所の受入れを制限しましたが、長期的な利用をされている方や自宅に帰ることが出来ない方に対しては利用継続希望があり空床を埋めることが出来ました。

3月にはコロナでの入院者や利用時の転倒による骨折で入院、状態悪化で入院と長期利用の方が入院となり、受入れも減少したため、稼働率が減少しております。

また昨年に引き続き、利用者の心身状態の変化により在宅の継続が困難となり、長期的な利用を希望される方が目立ちました。特養の入院床を活用しながら、長期的な利用ができるよう受入を調整することにより、一定の利用者が確保できました。

短期入所利用をされていた方の4名が特養入所へ移行しました。毎月定期的に利用継続をされる方と空床を他の（南区・中区、施設連絡会等で）事業所に提示することにより利用日の調整を行うことで利用者の確保に努めました。これまで同様、従来型特養の短期入所のニーズは高くなっており、経済的な事情で有料老人ホームや高齢者住宅、グループホームへの入所を躊躇される方など立場の弱い方の受け皿としての責務を果たして参ります。

令和3年度 ふれ愛の家 通所介護事業報告

デイサービスセンターふれ愛の家

1、はじめに

デイサービスでは、在宅生活を送る高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けていくことが出来るように、身体機能の維持、向上と介護が必要となっても、自宅での介護の一部分を補足できるように自宅までの送り迎え、入浴や排泄、昼食の介助を中心に感染症対策を図りつつサービス提供を実施しています。

2、事業実績

【通所介護 サービス利用件数】

令和 3年度	開所 日数	利用者数						予防介護		合計 人数	平均利用 人数
		7-8 時間	6-7 時間	5-6 時間	4-5 時間	3-4 時間	実利用 者数	延べ			
4月	26	474	115	313	15	0	31	16	70	544	20.39
5月	26	471	112	323	17	1	18	20	82	553	21.26
6月	26	447	92	314	17	0	24	19	69	516	19.85
7月	27	520	108	345	4	1	49	17	66	586	20.7
8月	26	504	108	334	16	2	44	16	62	566	21.7
9月	26	515	117	335	16	2	45	14	49	564	21.69
10月	26	533	112	355	17	9	40	13	54	587	22.58
11月	25	552	108	336	55	16	37	17	65	617	24.68
12月	26	529	106	354	25	7	37	18	74	603	23.19
1月	24	444	86	299	23	11	25	17	54	498	20.75
2月	18	258	47	177	15	6	13	11	25	479	15.72
3月	27	432	78	305	19	6	24	16	55	487	18.04
合計	303	5679	1189	3790	239	61	387	194	725	6600	250.5
平均値	25.25	473.3	99.0	315.8	19.9	5.08	32.25	16.1	60.4	550	20.87

※2月はコロナ感染拡大、浴室改修工事のため6日間休業とした。

【活動内容】

- ・4月より職員体制の変更があり混乱もありましたが、他部署（在宅部）の応援や送迎担当職員、派遣職員の導入をすすめ、6月以降は職員確保ができました。また、新型コロナウイルスのワクチンの接種がすすみ、少しずつ新規利用者さんの獲得も図れました。

- ・前年度に引きつづきカラオケシステムを活用したレクリエーションを継続し、バリエーションを増やしました。また、10：00～11：00と12：40～13：30の時間にプリントによる脳トレ（間違い探し、計算・漢字問題など）、看護師による個別機能訓練（ストレッチ、柔軟体操など）を実施して利用者の認知症予防と体力づくりを継続しました。
- ・新型コロナの影響で利用者の利用自粛等は見られましたが、感染予防対策として、検温・消毒の実施、空気清浄機の設置など行い、利用者には安心して過ごして頂ける環境整備を実施しておりましたが、2月に特養にクラスターが発生、職員不足も生じたため、2月21日～26日までデイサービスを休業し、特養への職員応援の対応を行いました。その期間に一般浴室の改修工事を行っています。
- ・3月にデイ利用者より新型コロナウイルス陽性者を確認しましたので、スマホ検査等を促し実施、合計3名の陽性者を確認しましたが、その後感染拡大はなく、感染された方も軽傷で自宅療養の後に回復されています。
- ・行事に関して、昨年度の経験を踏まえ、ソーシャルディスタンスを図りながらも、皆で楽しめるような行事の企画を行いました。大規模な行事も12月にクリスマス会を行い、利用者・職員とも楽しむことが出来ました。レクリエーションやカラオケなど、飛沫感染の予防対策を取りながら継続することで利用者の楽しみが減ることを抑える努力を行いました。
- ・地域活動としまして、認知症サポーター養成講座、地域サロン、地域向け介護予防教室を計画していましたが、昨年度同様、感染予防の観点から自粛することとし、代替え案として、自宅できる健康体操を啓発する新聞を作成し、消毒用の除菌シートを合わせて近隣住民へ配布しました。

3、今後について

今年度は職員体制を維持するために派遣スタッフを活用し安定を図りましたが、今後は派遣職員からの直接雇用への置き換えや、新規非常勤介護職員の獲得を図ります。

また、各職域の業務整理を行い介護予防・介護・医療・福祉が効率的に運営できるように取り組みます。

新型コロナウイルスの感染予防対策を継続しつつ、新たな取り組みや地域に還元できるような事業・企画を検討して参ります。

令和3年度 居宅介護支援事業所事業報告

ふれ愛の家居宅介護支援事業所

1、はじめに

新型コロナ感染予防の為地域の活動などが中止となっており地域の方と接する機会が減少しています。その一方でご利用者の紹介に関しては他事業所や、包括支援センターからの紹介などもあり新規ケースの依頼が増加しました。

相談ケースをお断りすることなく迅速に対応をさせていただくことで新規数の増加につながりました。また、近隣の方からの相談などでの新規対応を行う機会も増えたことで近隣の方とのつながりもできるようになってきております。

中区の事業所として地域包括支援センターが運営するケアマネ連絡会やその他 ZOOM を活用した研修やオンライン会議に参加し、また緊急事態宣言などの緩和された期間に他事業所と情報交換を行うことで事業所同士、横のつながりを意識をしながら地域包括ケアシステムの構築が出来るように地域住民や他事業所との連携が図られるように対応を行いました。

2、事業実績

令和3年度 新規利用者件数 40件（19件）
終了件数 24件（29件）（前年度件数）

【新規・終了ケース件数】

利用実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
終了ケース	1	2	0	3	4	2	1	2	3	0	2	4	24
新規利用	1	0	5	4	3	5	2	5	5	2	5	3	40
給付管理数	72	72	78	77	75	81	80	87	87	88	94	92	983
予防給付数	11	13	13	13	12	13	14	21	21	23	22	21	197

【活動内容】

今年度も新型コロナ感染予防の為に研修機会が減少していますが、オンラインでの研修の機会は増加しています。また、近隣事業所との連携や、地域の方との交流なども殆ど行えない状況が続いていますが、緊急事態宣言等が発令されていない期間に他事業所のスタッフ、ケアマネージャーと介護保険やその他の情報交換を行い連携や相談を行ってきました。

担当件数に関しては、ダイレクトでご連絡してくれるケースが減少傾向にあり、他事業所からの相談件や包括支援センターからの相談が増加したことで新規ケースの獲得につながりました。

年間利用終了者も24名であり月平均2名の死亡、入院、入所などによる終了となっております。新規利用者数は40件と前年度よりも増加しており月平均3件の新規数で前年度より純増16名となっております。

4月に未経験者1名が入職しており、業務指導を行い30件のケースを担当しております。職員が入れ替わったために短期間でのケアマネージャー交代となりご利用様にも他事業所の方にもご迷惑をおかけする場面がありましたが、今後も離職者がでないように業務を進めて参ります。

令和3年4月には介護保険報酬改正があり、その後の情報を他事業所と共有するなど情報収集を行いました。また、ケアマネジメントに対する研修を伝達会議でも取り入れるようにしたことで職員自ら調べて発言する機会を作り自己学習できるように取り組みました。

3、おわりに

令和3年度は利用者数の底上げが出来るように、地域に根差した歴史のある社会福祉法人の居宅介護支援事業所としての役割が果たせられるように、他事業所との信頼関係を築くことと、他事業所からの質問や相談を受ける事、新規の依頼をお断りすることなく対応をすることで特定事業所としての役割を果たせられるように心がけてきました。

また、利用者数を伸ばすだけでなくケアマネジメント力の強化が出来るように毎週の伝達会議で研修の機会を持ち自分で調べて発言が出来るように取り組みました。

令和3年度も介護支援専門員の実務者研修の現場実習受入も事業所からの問い合わせもあり自習指導を実施しております。

引き続き地域包括支援センターとの連携を図り、地域の困りごとなども一緒に対応を行うことで特定事業所としての役割を果たして参ります。

職員が離職しない環境整備を図るとともに今後も職員の教育と職員が働きやすい職場作りを継続して参ります。

令和3年度 中第2地域包括支援センター 事業報告

1、はじめに

中第2地域包括支援センターは、地域住民の心身の健康の保持及び生活の安定のためにさまざまな相談に応じる高齢者の総合相談窓口として、多くの方に利用していただきました。

2、令和3年度 中第2地域包括支援センター事業実績

令和3年度	総合相談			困難事例 対応件数	予防プラン		
	新規	再相談	計		包括プラン	委託プラン	計
4月	28	265	293	4	51	386	432
5月	42	233	275	3	50	385	435
6月	28	318	346	0	51	395	446
7月	23	296	319	0	47	401	448
8月	38	333	371	1	47	407	454
9月	37	303	340	1	49	406	455
10月	33	379	412	2	49	407	456
11月	28	272	300	0	44	403	447
12月	29	275	304	0	43	411	454
1月	28	253	281	2	36	415	451
2月	27	266	293	1	36	388	424
3月	34	309	343	1	36	394	430
合計	375	3502	3877	15	539	4798	5337
(前年)	(343)	(3930)	(4273)	(16)	(572)	(4659)	(5231)
平均	31.25	291.83	323.08	1.25	44.92	399.83	444.75

【活動内容】

① 受託運営

SNSの活用としてLINE公式アカウント取得し定期的に配信、中区高齢者お役立ち情報スポットなどの取り組みや地域の障害就労支援事業所との協働により広報誌の配架などに取り組み、地域包括支援センターから地域住民に直接的に介護・医療・福祉など様々な情報を発信し、高齢者の見守りの強化につながる取り組みを進めてまいりました。地域の方々から、「チラシをみたわよ。」、「いつもLINEみてるよ」などのお声をかけていただけるようになってきております。

② 地域ケア会議の開催

令和3年は堺市の評価基準では個別課題・個別課題以外の地域ケア会議を合わせて12件以上取り組むことを目標としており、当事業所としては各職員2回以上、地域ケア会議を開催することを目指してきました。経験年数が少ない職員も地域ケア会議の開催の難しさを感じながら取り組み、合計16件開催することができ、個別課題より地域の課題としては認知症ケアや8050問題が傾向としてあげられ、50代の今後の見守り体制と地域との連携が必要を認識しております。また、個別課題以外ではコロナ禍での地域活動の工夫が課題となり、小学校区を超えた地域間で交流することにより情報交換など意欲的に話し合うことができました。

③ 介護支援専門員の資質向上に向けた取り組み

ケアマネ連絡会を中心にZOOMによるオンライン開催で情報交換を行いながら、報酬改定の情報交換や地域資源などの共有を行いました。また、地域の主任介護支援専門員が介護支援専門員の育成やアドバイスができる体制に取り組めるよう中区主任ケアマネによる「ケアマネパフェ」を立ち上げ、今後の支援活動に向けて意識共有を図りました。

④ 地域連携と施設内連携

令和3年度もデイサービス職員の協力を得て地域サロンでの活動・企画を行いました。また、在宅部門の職員のスキルアップと事業所間連携強化のため、合同勉強会を開催し、各事業所で必要な情報を互いに学習しました。

3、終わりに

地域とのつながりを意識した令和3年度の取り組みで、地域での防災意識の高まりにより関西大学学生と地域住民とが一緒になり防災訓練の実施を通じて地域住民とより近いつながりを構築できたと感じています。また、事業所間のICTの活用のみならず、地域住民がICTを活用できるようになることでサロンなどの開催や相談の方法など今後、活動のあり方の幅が広がることを考え、地域の担い手がIT機器使うことができるよう使用方法などの学びの場の必要性を考えています。

今後はこれらの取り組みを継承し、少しずつ地域の方々にも慣れていただく機会を企画し気軽につながるができる、高齢者の見守りに活用できる地域づくりに努めて参ります。